

これがオススメ! 読み聞かせ本

中・高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

日本が広くアジアで戦争をしていた当時、台湾は日本の植民地でした。6年生で歴史を学んだ時も、植民地の学習をしました。そんな時、ずっとクラスメイトとして共に過ごしてきた友達が台湾に引っ越していききました。その時から、私たちにとって台湾はとても身近な国となりました。外国との交流が多くなった現代では、過去の記憶を正しく伝えておくことも重要になってきています。そんな時この本はピッタリです。

この本は、70有余年前の台湾で幸せに暮らしていた作者が実際に体験したことがモチーフになって作られました。植民地とはいえ、子どもたちは、町並み、家族、近所付き合い全ての中で幸せに暮らしていました。しかし戦後、状況は一変します。育った地を追われ、仲良しの友達と

別れなければいけなかったのはなぜか。そして仲良しの子に「日本名で呼ばないでー」と言われたのはなぜか。その時の主人公は世の中のことが何もわからず、悲しみを抱いて日本に帰っていきました。

勇ましい言葉で多くの人々が扇動され、戦争に巻き込まれた結果、こうなるんだということ、歴史の学習ではなく、日々の生活から感じ取れる内容でしか。台湾の田舎の風景などが細かく描かれているさし絵からは、異国情緒が味わえました。

遠く台湾で暮らしている友達と、いつでも会える関係を残していきたいという願いも込めて、この本の読み語りをしました。外国の子どもたちが日本の小学校で学ぶことも多くなってきている昨今、歴史を伝える上で大事な絵本だと思います。



ひでちゃんと よばないで

おぼまこと / 作
(小峰書店)